第３１号 2023．6

鳴門シーガル病院

かもめ便り

社会福祉法人 小渦会　鳴門シーガル病院
理事長　　並木　俊明

シーガル病院　検索

記事紹介

新年度を迎えて　1 面
避難訓練　2 面
医師紹介　2 面
配食サービス　3 面
職員表彰式　3 面
給食だより　3 面
Dr.’sエッセイ　4 面

【ホームページ】 http://k-seagull.jp/　【所在地】 徳島県鳴門市瀬戸町堂浦字阿波井57番地　【TEL】088-688-0011（代）

新年度を迎えて

新型コロナウイルス感染症が、感染症法上の５類の位置付けに移行となった新年度。スポーツの分野では、選手の好プレーに合わせてスタンドから歓声が上がり、観光地では訪日の海外の方々の姿が見受けられるようになり、戻ってきた日常が非日常に感じるほど、一気に世間の様子も変わってきました。

当院でも例年通り年度替わりの異動、入退職などで現場の雰囲気に変化があったのに加えて、数年ぶりに多職種の実習生の方々の受け入れを再開しました。当院のスタッフも久しぶりに指導にあたることになり、看護、作業療法、心理、それぞれの分野で、実習生、指導者という立場で、お互いに刺激を与え合う良い機会になったかと思います。

また、病棟レクではカラオケが再開されたり、ハード面では病院の外壁塗装が完了。青い空と緑の中映える、綺麗な色に仕上がりました。

まだまだ以前と同じく元通りと言うには至りませんが、引き続き感染対策など最善な方法を探りながら、変わらずより良い医療の提供を目指して努力を重ねてまいります。

シーガルニュース　避難訓練を行いました

今年に入って、２度の避難訓練を行いました。

３月２２日に行われた避難訓練では、災害時の避難に渡船が使用できない場合を想定した、徒歩での避難ルートの確認を行いました。当院を出発して旧鳴門ハイツまでの経路を想定したものですが、舗装されていない道を歩くことが多いため、傾斜が急な場所、足元が悪く気を付けて進まないといけない場所など、実際に歩いてみることで様々な発見がありました。

また、旧鳴門ハイツに到着した際には、衛星電話を使用した連絡訓練も行い、通信状況を改めて確認しました。感度は良好で、各種通信機器が使用できない場合の連絡手段として大いに期待できそうです。

また、５月１７日には火災を想定した避難訓練を行いました。久々に患者様にもご参加いただき、ここ数年で入職した職員にとっては初めての、今まで何度も経験がある職員にとっては再確認という意味で、とても有意義な訓練になったと思います。

水を入れた仮の消火器を使って消火訓練も実施し、初めて触れる職員は操作方法に少し戸惑いながらも、的を目掛けて放水を行いました。

医師紹介　新しい先生が来られました

本年度より新たに、枝川令音先生が当院へ入職されましたのでご紹介いたします。

精神科医師の枝川令音（れおん）と申します。直近４年間は徳島大学病院からの派遣で週1回の勤務と当直をしておりました。シーガル病院は海や山に臨んだ自然豊かな場所にあり、以前から大変気に入っておりましたが、本年度から週４日勤務の常勤となり嬉しく思っております。引き続きよろしくお願い致します。

枝川 令音　先生

地域交流　配食サービスを実施しました

新年度に入り、４月４日と５月２日、堂浦地区への配食サービスを行いました。それぞれ７０食以上をお届けし、当法人内の多機能型支援事業所ジョイナスで作成した小物も一緒にお配りし、皆様とても喜んでいただきました。今後もよりいっそう地域の皆様の福祉に貢献できるよう努めてまいります。

イベント　法人の設立記念日

毎年６月１日は、社会福祉法人 小渦会の設立記念日として、法人内のすべての施設において休日となっています。法人の認可から７１年、前身の保養院開院からすると９５年になりました。そして翌日の６月２日に、法人本部の置かれている当院において、職員の表彰式が行われました。

この１年間で法人の運営に貢献した個人やグループ、および勤続年数が１５年以上、３０年以上となった職員が表彰されます。

例年の行事ではありますが、これまで続けてきた活動や、日々の努めが目に見える形で評価されるので、それぞれの分野で一層の活躍を目指すモチベーションとなっています。

今年度は、各施設から合計で７名の職員が、その功績や勤続を表彰されました。

給食だより

上記の、６月１日設立記念日に合わせて、例年の紅白饅頭と練り切りを提供しました。

今年の練り切りは、新緑と鯛を模った、地元の和菓子屋さんから仕入れたものです。

見た目にも楽しく綺麗で縁起もよく、患者様からも大変好評でした。

Dr.'s エッセイ　浦島太郎伝説考

何年か前に高松港からフェリーに乗って瀬戸内海に浮かぶ男木島（おぎじま）に行ったことがある。それほど大きな島ではないので数時間かけて歩いて島を一周した。瀬戸内国際芸術祭の舞台にもなっているので島内のあちこちにさりげない形でアート作品が残されている。島の西側の道を歩いているとその沖に大槌（おおづち）と呼ばれるピラミッドの形をした島が見える。生まれ故郷の岡山側から幼少期に何度も見ていた島でもある。男木島に置かれていた観光パンフレットで大槌の海底に竜宮城があると古代から言い伝えられていることを初めて知る。そして、島の散策中に香川県三豊の病院でのことを何となく思い出していた。幻覚妄想状態に陥った統合失調症の若い患者さんを入院させるために荘内半島にある自宅まで迎えに行ったのだが、事前に察知されて逃亡された苦い思い出がある。その地名が「箱」と知って当時ずいぶん変わった地名だと感じたが、香川を離れた後に荘内半島の浦島太郎伝説を知り合点がいった。「箱」とは浦島太郎が玉手箱を開けた場所が由来になったとか、今は桜の名所になっている「紫雲出山」（しうでやま）は玉手箱の煙が紫色に変わってかかった山であるとか、物語にちなんだ地名が散りばめられていたことに気づいた。そして今度は荘内半島近くにあるという竜宮城の話である。パズルのピースがまたひとつはめ込まれた気がしていろいろなことを考えながら歩いた。

さすがに大槌の海底に竜宮城があるとは思わなかったが、はるか大昔にそこには楽園があったのかもしれない。瀬戸内海が今の形になったのは8500年前と言われている。それ以前は平原が広がりナウマン象や水牛、シカなどの動物がたくさん住んでおり、狩猟生活中心だった縄文初期の我々の先祖がそこを豊かな食物に恵まれた楽園の地と感じたとしても不思議ではない。その太古の記憶が言葉で子孫へと代々受け継がれ、やがて形を変えて浦島太郎の伝説として残ったのではないだろうか。そんな幻想にふけりながら歩いた記憶がある。妄想は絶対にありえない内容だが、幻想はひょっとすればありえるかもしれない。いつかこの幻想が現実になる日を科学が手繰り寄せてくれることを願っている。

医師　　澤田　和之

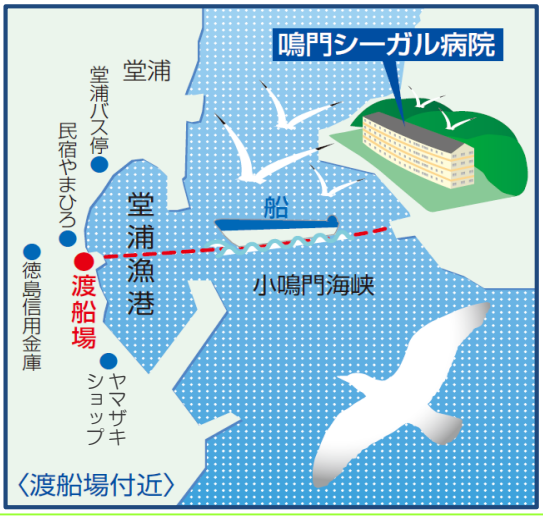
【編集後記】

例年より早い梅雨の季節を迎え、夏ももうすぐとなりました。皆様、水分補給は忘れずに。今回は新年度にあたっての行事等を掲載しました。

次号（『かもめ便り』第32号）は、2023年8月に発行の予定です。

広報委員会

鳴門シーガル病院　交　通　案　内

- JR鳴門駅から「北泊・堂浦行」徳島バスで堂浦（どうのうら）下車（所要時間20分）
- 直営渡船利用　（所要時間2分）
  - ◎渡船（無料）運航時間
    午前7時30分から午後5時20分まで
    定時運航（10分～30分間隔）しています。

TEL088-688-0011（代）